賣宕百韻

伊地知文庫
文庫20
42

天正十二年五月十四日於愛宕山
明智光秀興行連歌

文庫20
42

伊地知氏書册

時ゝ今雨ゝ下初る宵の那　光秀

あと法ゝる　庭の春山　行祐

花ゝ法ゝ花の流れ　紙巴

うゝゝゝ庭を眺ゝる　ゝ　宮原

春も移ゝ過の動ゝゝ　昌叱

かゝゝ自神ゝ　ゝ命の京　心前

うゝ　枯年為如ゝ菊に枯て　兼如

少　別ゝゝ野の　松也　行況

秋ゝ雅　ゝ　行ゝ

祐

尾上のあらまを見しるべ　秀
立つてくれ松の梢や梅ゝらん　源
法のけぶりの入あひの里　巳
漕こゆる海士の小舟の長き　前
屋ゝ見ぬ世なれば友をなく　此
忘れぬ嵐の言の葉ぞ　如
きゝもせぬ雲きいつゝうらん　祐
月を始ひとり八方中のあまの見　秀
て見ぬ方の夢はのゝなり　源

袖の露　巳
あらぬ人ぞ誰ぞきらん　前
いとゞまぬ人もしぬ妬ぬ　此
見いむ角ゝ見ぬ人　如
おいゝのあとの情け行ゝらん　祐
はおもひ出テアリ
伊勢物語をとれば　前
ふゝ人ぬる心ゝ　秀
谷の戸ぞ苔の庵ぞ　源

草のかしらをうけ　此
松うえの杉をいさめる岩佛い　如
あるいはあらしの垣のみる寺　前
春日殿のあるとも殿うたて　巳
うらうらうらうらとなるまの月　祐
昔の業のうたてうたてうたてうたて　秀
たちたちたちたちたちたちたちたち　巳
姥風もたちぬるたちぬるたちぬるたち　此
みたちたちたちたちたちたちたちたち　如

もも井のわたるたちかたちたち　巳
百姓をいたした浪のうすうすうす　此
さき野の杉のぬれをうぬれぬれ　前
れれれれれれれれれれれれれれれれ　秀
山風の吹きしきたちたちたちたち　巳
たちたちたちたちたちたちたちたち　源
罪人も苦あるまいたちたちたちたち　如
人のうたちたちたちたちたちたちた　巳
はたちたちたちたちたちたちたちた　此

秀
源
前
秀
比
前
如
巴
秀

法
如
比
秀
源
巴
比
前
巴

祐　前　北　源　巳　秀　祐　如　秀　巳　源　北　前

山の面の晴るも折ふし時雨
雲もなき人のうえ
やうすする雲居の空のうらゝ
山ゝ山ゝうるいまし
紅葉ゝゝ
引まてゝ横雲の空
出うんと浦風うるゝ海船
えめる時の音ゝ
山ゝ岸の紫ゝ色ゝ入日哉

前　北　如　祐　秀　前　北　巳

主さまをくてハ略のかなしき
行人もなき田面の雁をて
かゝくてまゝ[illegible]ふくの房　秀
月をたゝうちもの[illegible]すゝ麻衣　巴
あもしもあ袖のあまの体を　源
志門をハをくこんとの[illegible]ふく　叱
あるゝの門を中の通い路　祐
ゝゝて行をうけひの[illegible]言　如
岩まの中無を或をすをん　巴
[illegible]　前

[illegible]の八代[illegible]ハ
箱のゝゝ　袖の　中ふ　秀
明を[illegible]の神　ウ　叱
ゝゝふゝしゝ行　如
ゝゝゝ里の前田の[illegible]　巴
縄をの行ゝちゝ　源
いゝむのゝいさゝのゝの上　秀
うちゝゝてし行ゝ　叱
をもゝ[illegible]破をすゝ　祐
[illegible]　前

風くハ移来間る時　変

光秀　十五
行祐　十一
紹巴　十八
宿源　十一
昌叱　十六

心前　十五
兼如　十二
行澄　一
光慶　一

知れずたそくるま淋しく岩田帯

題　梅　五百　寺初　手綱　口祝

梅うゑのちるも可ゝ有あり梨
手綱もつはかしや松ふかくなを
手の紙ものはしてゝ多川口いゝ
梅う春ゝ押れうちゝ紅五所ふ
知ちゝ山ゝ藤く仕ゝ多ゝ也所
引ゝ多ゝ朱や鳥朱の咲ゝ口を
ちゝ山や牛の口春出来ゝうゝ
岩清ゝ梅ゝ梅ゝ為はくゝ多ゝ
小清みゝ梅ゝ梅ゝ多ゝ多ゝ
可ゝ見ゝ口ゝ多ゝ
梅ゝ山ゝ梅ゝ
ゝ山ゝ山ゝ
ゝ山ゝ山ゝ
ゝ山ゝ山ゝ
ゝ山ゝ山ゝ
ゝ山ゝ山ゝ
ゝ山ゝ山ゝ

千徳　無苦　二悳　馬口　藤哉　仝　可笑　二悳　松流　鳥朝　湾斗　松流　嵐遊　藤哉

春や来ぬとの声とゝめ　瑞斗
日上井梅も咲しうかれ着　一池
湯原のめしからけれ手まり賣　東壺
小ともしや梅の匂ひ吹けしも　一哉
春ゝ深し舟禰渕傍の竹　月彩
菜圃くぬれても出ちりまれ　春風
ちる枝の楳家のまゝや高き庵　逸亮
出の火鉢しかうてや芽手迷　松浜
長い空け尋ちりまえる門の楳　一斗
口紀鳴きすゝ子ても花しえたり　松浜
春や草はつかしぬくちの古家　可笑
圀雨ちまし長し口いろ井　黒石
出女の業うれしさし学寺を宗　仝
出初め出来や笑窄の奥深い　鯨芽
男つさかり家根鉄しうまちて鞠　嵐雄
春雨を四五人語や草庵　一枝

野を錺る菓子賣見ゆる梅の宮　黒石
楳咲く梅ちらしまれ珍　仝
うけたるもの竹くみれハ手鞠かな　嵐雄
春の雨鐘れ音遠ゝゆかりかま　蕗二
けるや鶯鳴の行ゝや男下駄　鯨哉
春雨や足をうるし子帝小傘　自仙
出来すうし鴬子梅の盛れたり　山虹
子のれや好をうけれす口いろお　紫薫
梅と月見をく出ちうてゝ架　一池
舟川お下駄く春めるや春れ雨　渋菜
烏帛咲や来たけ見中家人通　うた九
家低し梅出ゝいかの留る門　一斗
行さましき鶯子行きくまの雨　瑞斗
ちるれ軒ゝきた郎し町の熊　金鸞
香の深い菜ひろめ川梅り和　鯨哉
逸うけ手まりや下駄の音くし　一笄

まさん梅折らるゝのひま李
手拭をつゝみ残し又手鞠
春雨や長屋坊のめしも喰
山吹や棟あけ行たる是月
買ひけさを鞠や別してあそらい
又ま何さふりもいろおさ口祝
月の出や鳥羽の白ひに口を入
寒けく机へ春や梅行く家
門川や流るゝ打ちさ楳の園
池に浮草れ種なり春の酒
煙れ中をまつく出来く春の写
梅りぬ杖に出外の付るめし
春雨や穴の芽ぅ陌へ来る
来る鳥や桃呉れた其知って添
尾 ○
春雨や恰停門這入らで

綿部一我全　千遊　二妹
一池りまへ　李添　瑞斗　思

李风　月彩　觧哉　亂旋　可笑　梅牛　一義　半雀　金洪　家下　紫菜　井亭　可笑　瑞斗　城州

かたつけの錦しらふや出くる先鋒
菜の花を見しのそや低ひ菜や
人のりを母とふて一ちほしの角
家おかし恐ろなれたやふなり口中
花のけおや酒くらひ哉提てする
ぬくと先た孫貌か若んとろくろう
川の名も見えて乗りや取しの角
花の名りし志へさて書し鎖の雪
手作けさゝの入りきを見るみさ
菜の花や国匠所をむむたの言ぶ家
花はさみや葉る合兵のよりふり
吉日とさいさすかゝりすねく先た孫
ふく風のはらく南くやりしのつれ
ちふ乃花ゝのきん結むさ家とら
菜の花の中や中すめの紫まし車
向のりさ見ら○ふろりけるみて

二

四

梅居　りん部　娃半　谷下　井亭　一思　娃堂　無名　梅居　亦々　一枝　一思　舌風　李添　全　素嘆

[illegible]

一 豊風中もえつゝ大人を
[illegible]

[illegible]

二月

[illegible]

ミナクチ なにハ 洛
ミナクチ 洛
ヒメチ サ山
サガ 洛
アハヂ
ミナクチ
ワカサ
ヤバセ
メカハ
ハマヒ
ワカサ
ナニハ

題　初雷出ル　彼岸　翁のサコレ

[illegible]

江　八日市　一夕　ナニハ　二水　一夕　大ツ　花明　田上　眠鄙　春子　栄花　里鶏　錦局　吾黙　文士
アヲギ　栄葉　アヲギ　一花　大歌　二水　ツキ　二水　石ベ　ツキ　栄花　大ツ　兎水　山歌　ナイ　アヲギ

芹　蓴菜

[illegible]

ナニハ　鳥啼　タカシマ　文鼠　カハチ　雲丸　サヽ山　篁布　サカ　和多　ハマレ　時雨　ヽ　山多　ワカサ　うつゝ安　ヒメチ　友山　サヽ山　素石　ナニハ　姫舟　アヰコ井　一雪　アハチ　雲仁　信　東居

蛍うくるみ砂交りさゝへ、くり、柳ノ　誉石
現かくれかゝるや川をさゝへ、くる、　アヤギ　一笑
中山やもつくり新くく畑の古　桜　こうゝキ　重花
ひうくさ芝の定まるひうん哉　精枝
宝見るや神雷の呼ひまか佛　其友
彼岸ゑや眼鼻の分しあと　遊之
ア古去れ道若ハの風る彼うんせ　錦局
せ川ゑの茶も花香ひる彼岸ゑ　アヤギ　二水
柴刈のくるゝ砂せしさくゝ　双蝶
早蕨ひくゝ見せるや芝の緑　錦雅
咲物ハ猶ひくゝるのの白さう弗　石べ　鳳尾
秋の月く神かゝかうれ咲るか丸　春子
まゝぬまちゑひうひやさくゝ枯　錦石
まるくゝくゝくゝ砂ひくゝれ　上アヤギ　柳陰
先くゝくゝまくゝたゝやひう汁連　桜　すり合　龍吟
彼うんまやみのう絵せ絵の麦　江　カタヽ　素容
まちくゝゑもまくゝ絵の内　八角
まくゝと湖水の砂やまくゝ取　申之

油

追加

定まつゝ古例や表乃夜幾枝　錦枝

題　汀鶴仙　宮洋山　扇文ノ　上下尺　アハヒ

蛍うくの花や鄙れ表も表なる紀
引表す　毋のうく目や羽　乃　江　アヤギ　山歌　遊之
新陽や紀のすくゝさ細鶴　仙　江　アヤギ　史舟
紀　洋や風ハうちくゝ吟くゝも　史舟
汀中りとま表う森ゝ　秋濤　八市　一夕
日の蛍くゝ紀のちう山や細鶴仙　桜　こうべ　近楽
くゝくゝ丈のゑ紀都や皆の洋　江　茶る　三糸
日ゆりの一ゝくゝ丈るうつさ　上アヤギ　柳陰
有明の蛍くゝ表や火ゑ虫ゝ　錦赤
行方や庚表ハ風のゑを通　アヤギ　一得
蛍くゝる雷ふもくゝや洋の月　古流
ひつさふハくゝも消て蛍森　錦赤
蛍新やくゝくゝやさ切くゝ風　辻サハ　梶彦
新墨くゝ形くゝ乃ふ今日筆　千十瀬
書素絵を洗くゝ姫の日筆ふ　梶彦
紀洋の詩や扇の追を紙す　八市　口今
月と月新の花やう青雛子　申之
行方や形くゝくゝ七曲り

日暮やたちさう月日土の杉山連　八日市　西來
細繪俳　こ櫛ノ雪山　移十り合　龍嗌
日霞すれば花屋の見せの男子行男
次の夕べ出て風入川細繪俳　素雪
大僧州菜うふとも　遊之
俳士の夕べ花藻を折て日和の邪　枝雪
行れのかりくとたるや　松葉
山陣い都の夜の月　花押
吟るさや飛夕べ通りて紙繪俳　琵童
夕べのたすよ山京ハ早わるる田江　共八　來志
雨ふのたるハ元つ一玉所、　ヲギ　蘭舟　中之
行かいてたる奥荷の花御ル、　千瀬
青陣やるるるてる六日月
細繪俳つりるやの夕ほり仮、　竹ノ竹枝　共ツ錦湖
行先てりたまれて行日傘ル、　大ツ田湖
男たさ夜を深ハやたさ独ル邪　竹ノ誉石
行ゑてるくの照日れ紙源ル邪
柏ゐ元たるる上るの扇ル　近楽
追加
日和ゐくたるやる麦ル秋快　錦枝

男きくへ凄い世ふあり　三千竹　八十七一字に　女市竜　霞舟
京へまるの九こるまる　氣勢
まれゐまるるるるる風　霞舟
源ゐの清くる元長ゐ日傘ル　子静
市人るまれるるる書の小笠ル　霞舟
神服くる端まるる山　ル
神きけくゐるる雨の音　公
きるる神や夜う隔きる明の夜　馬口
移りまるる世ふちるるやめるる美　東鶯
食るるゐ小内中の杉るるるる　翠
門ゐるる世典らしゐ月　錦英
縄入るるの中も現ゐて争腫ゐ　州ゐ
ちゐ屋の夜常新ゐる切茶哉　竹宅
東湖ゐ古刀も年さしむ一つの京　瀧丸
六舟のるる明ゐ京のあゐ　鬼山
清会ゐるるや河夜ゐの日阪ゐの　馬朝
清賀

馬朝
清賀
○ヤ
五井
龍丸
霞舟
琴
塗竹
○ヤ
霞舟
仝
鬼分
竹色
鬼山
最月
馬朝

俳仙堂翁選

春部

春来

霞舟
乐水（サガモト）
移石（フレミ）
鳥刻
甫月
狸二
十九

巻油

春秋菴 評

梅仮（ヤハタ）
霞舟
梅仮
其友
霞舟

油

櫻戸 評

[illegible] 矢石 亀石 柳二

[illegible] 柳二 玉説 東雲 梅仁 めい川 馬九 梅仁 埜有

油

[illegible]

俳仙堂翁選

[illegible] 桜戸

朝[illegible]や二人の中の世は[illegible] 又陽 桜戸

[illegible] 馬九 柳二

[illegible] 三笑

[illegible] 其茂

[illegible] 弗山

[illegible] 札蟀

春秋庵 評

[illegible] 馬六

[illegible] 其茂

[illegible] 一芝

[illegible] 二由

[illegible] 柳二

巻油

巻軸

菊の香の[illegible]かな[illegible]　兎山

くれ[illegible]るや露の[illegible]く枝と葉の色　壽山

旅の月我大かたにつけてぬくめ酒　眠鹿

櫻庵評

肩にくる秋のよ寒もきゝ合　其交

夜の月青ある[illegible]かな中　玉浣

朝寒やひくてあくとの耳またり川　札[illegible]

柿の木のうしろ[illegible]夜の月　枝石

朝寒や[illegible]　流馬

よ[illegible]をよきもに買ふ秋[illegible]　斎舟

夜の月あたゝら[illegible]　サカモト 觀子

朝寒やひくて[illegible]其かの庭の下　馬丸

巻軸

○

紅葉折て[illegible]自ひ[illegible]　前[illegible]

[illegible]や大根くもる[illegible]　[illegible]童

葉の上[illegible]我[illegible]　亭雅

十月既[illegible]　大[illegible]

天保十年亥八月[illegible]　芭蕉堂[illegible]撰

追

追加

這[illegible]ふとする[illegible]合かな　城南 [illegible]弓

川[illegible]かくし[illegible]やまの[illegible]　伏見 [illegible]

[illegible]一羽も[illegible]の鴫　津 梅職

[illegible]新[illegible]　大坂 為之

秋[illegible]池の[illegible]　丹 得之

[illegible]　豆州 [illegible]

[illegible]の[illegible]　クルメ 文園

[illegible]竹を[illegible]　[illegible]弓

川[illegible]網　雪ヨコ山 [illegible]趾

[illegible]　ハリマ 古谷

[illegible]　梅暁

[illegible]の[illegible]小村[illegible]　ツルガ 素月

[illegible]向く月[illegible]　西湖 香雪

芭蕉堂 蔵

合

合

曲

秋の樹一ツ気づくやあれの音　洲へ　蝶采

来かゝる子の影く来る月見哉　西湖　徒梅

山柿や浴てゐるをとろ　素外　里

乃れや川曲へゝ五日　丹　呉秀

きる月よ来すゞ歌子の餅哉　素　ろ女

よく似るしろ荻や生か泥　津　雪𠘑

つきそも其の根いやす菜刈　華　栗室

里あるの花の芒の外くある　西湖　半水

生身りや秋なるゝ芒の上　アヲ　る十

みゆのあとや小橋の笹外素　仙ヅ　柳蛙

姐乃ちく藍ゆるいとうれ　オガモト　花六

○

来る人り讃会りホぶる月　新陽

月々の郷三る合　社中

天保十年亥九月次　芭蕉堂　鶴阿宗匠選

秋らしき紫よりきく哉かれ　京嶋　氷谷

まるめろやとうさ下のきひりの　ハシ　花鳥

とりの如き声やゆんとは林の小　京　美端

生徳の肉や数代のさく洞　時雨襄

入終乃日みくしき稿擬外　カタセ　若雄

枯目ま来さ秋素来の志ゆりれ　ハシ　之廣

之日月や流れまかる山乃陰　丹　宜州

籾十きかり貌すする南内状　ハシ　夜有

りうかく来さくえすくても流ヶ　月佗

西風ま吹き切るすやうり鮎　らう女

隣待乃月やまくさ火鉢　流川

おくとよなうや稿木の除り風　太田　暁梅

八網や田きなしく小西豊　ミツケ　世り

芭蕉堂蔵

一ゆきは紫のおちこちあり梅鶯　川之二 湖月
梅いつちるや咲のこる思ふ　湖東 花峰
秋空や紅ゐもかゝるあ坊主哉　三ツ子 亀支
手に女や気の付て宿の茵　五十川 芝来
出てる山くらしのもとりや秋の風　作里
稲妻や言々徳の梅の松　伊津 葉石
在東
其あらは白くさしきりや人の月　京 青葉
山後や紫影をみて引　十六 石之
在東
一あしく鳥の秋もしもりなき　三ツ子 蕉葉堂
野や大きう千しき柿の実　令
○
一枝も枯葉の交る紅葉哉　富梢
江ぬ照りゆる入日や世の秋　紅陽
秋月この鄙こる宿　停鈴卜 社中

仲冬
多仙やとしもちるる花の風　近江クチ 浮国
麦蕎や静の世話ても日の暮へ　歌甫
おくまのや入そてぬ里の二杯哉　アハヂ 麦秋女
むかし蕎や秋るも小鳥をてん出て　近クツキ 風眉
涼しさの鏡り魚の霜ほの月　ノムラ 禄子
ときは汁や二日ばかりある雪の花　洛 至笛
気れりつ雨やむかし尽るぬかん　冊サヽ山 九玉
うい気そのてのてはちりや干鶴　浮国
米ろ馬丸ぬのきとうるや手仙むし　サガ 安冰
ちいさむの花をわするや日の匂ひ　ノムラ 梅石

[illegible]

若ウセ　蜀江
ミナクチ　雪梅

梅給
なの紅

[illegible]カミ　嫩鶯
[illegible]ト
[illegible]山　松ト
[illegible]　扇風
[illegible]山　月泉
[illegible]　[illegible]安
[illegible]　[illegible]
十二八　是阿
[illegible]　松翁